



災害が発生したら

正確な情報を収集する

- 倒れやすいものから離れ、落下物に注意。
- むやみに動かず安全を確認。
- 非常口やドアなどを開けて避難口を確保。
- 避難は徒歩で、荷物は最小限に。
火を扱っている場合は、火の始末。
- エレベーターを使用せず階段で避難。
本学のエレベーターは地震が発生した場合、自動的に最寄りの階に停止するシステムになっています。
- 正確な情報収集に努め、なるべく集団で行動。
- 負傷者の救護や初期消火に協力。
- 家族との安否確認および大学へ安否連絡。

地震発生直後は裏面へ



大学への連絡方法

落ち着いたら大学へ安否を知らせる

【安否確認システムへの返信】

- メールアドレスを登録している方
安否確認システムからメールが送られてきたら、URL を選択またはメール本文中の質問に対し回答する。
- アプリ「安否の番人」を利用している方
プッシュ通知でスマートフォンに通知されるので、アプリを起動し、通知詳細画面から本文中のURL を選択して応答入力画面から返信する。

【その他の報告方法】

電話(ハガキも可)で、次の①～④を報告する。

- ① 学科、学年、学籍番号、氏名
- ② 本人・家族の怪我の有無
- ③ 現在の所在・連絡先
- ④ 困っていることや周囲の状況

● 長久手キャンパス

〒480-1197 愛知県長久手市片平二丁目9
愛知淑徳大学 学生事務室 Tel. 0561-62-4111 (代)

● 星が丘キャンパス

〒464-8671 愛知県名古屋市長千種区桜が丘23
愛知淑徳大学 教学事務室 Tel. 052-781-1151 (代)



日頃の準備

大地震の発生を防ぐことはできなくても、適切な準備を行うことで被害を軽減することができます。

どんな備えが必要か考えておきましょう。

- 避難場所の確認 (大学付近および自宅周辺など)
- 安否確認システムの登録確認
- 家族との連絡方法および待合せ場所の確認
- 災害用伝言サービスの確認と登録 (メール宛先などの事前登録が必要)
- 帰宅ルートおよび所要時間の確認 (災害時徒歩約 2.5 km /h)
- 緊急時パーソナルメモの作成・記入
- 具体的な情報収集手段および緊急避難場所などの確認 (大学および通学途中)
- 大学、友人などへの連絡方法の確認および避難先リストの整備

memo

* 記入は油性のペンを使用してください。



緊急避難アイテム

日頃から携帯しておくとお便利なもの

- 現金 (小銭も)
- 健康保険証
- タオル・ぼんそうこう
- 小型懐中電灯
- ホイッスル
- ティッシュ・ウェットティッシュ
- 非常用保温アルミシート
- チョコレート・あめなど
- 学生証 (免許証なども)
- アドレス帳
(家族、友人の連絡先を記入)
- 雨具 (カッパなど)
- 携帯充電用バッテリー
- 油性マジックペン
- 緊急時パーソナルメモ

その他非常時に必要なアイテム

- 貯金通帳
- 常用薬とその処方箋
- 運動靴
- 卓上コンロ
- ひも・ロープ
- 予備電池
- スリッパ
- 使い捨てカイロ
- 印鑑
- 上着・下着・靴下
- リュック
- 懐中電灯
- ろうそく
- 缶切り・栓抜き
- 洗面用具
- 非常用食料・水

大地震 ユ震 ア対 ル応

もしもの時にあなたの身を守る



本マニュアルは、耐水性に優れた丈夫な紙を使用しています。



愛知淑徳大学



家族への連絡方法

電話 で確認 NTT災害用伝言ダイヤル

☎ 171 をダイヤル

録音 1

再生 2

暗証番号を利用する録音 3

暗証番号を利用する再生 4

連絡を取りたい方の電話番号を入力

伝言の録音 (30秒以内) 1*

伝言の再生 1*

*ダイヤル式電話機の方は利用できません。

インターネット で確認 NTT災害用伝言板

<https://www.web171.jp>
(web171) へアクセス

伝言の登録

伝言の確認

事前の登録が必要です! (事前にテストをしてください) 携帯各社の災害用伝言板サービス

大規模災害時に携帯電話から安否確認 (安否情報の登録) ができる災害用伝言板サービスです。

あらかじめ指定したご家族や知人に対して、災害用伝言板に登録されたことをメールでお知らせする機能も提供されます。また、インターネットからも安否情報の確認が可能です。

各社の QR コードはこちら



NTTドコモ

<http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>

au

<http://dengon.ezweb.ne.jp/>

ソフトバンク Y!mobile

<http://dengon.softbank.ne.jp/>

緊急時パーソナルメモ

フリガナ

氏名

学部

(学科・専攻)

学籍番号

住所

電話番号

生年月日

持病

常用薬

アレルギー

血液型

Rh ()

自宅近くの避難場所

家族との待合せ場所
家族と共有しておきましょう

緊急時連絡先

氏名 (間柄) 電話番号:

氏名 (間柄) 電話番号:

* 記入は油性のペンを使用してください。

地震発生直前直後の適切な行動があなたの命を守ります！

地震発生
身を守る

今いる場所は
本当に安全？

YES
その場所を動かない

NO
避難場所へ避難

**家族との
安否確認**
※裏面参照

自宅に歩いて
帰れる？

YES
自宅へ

NO
避難場所へ

**大学へ
安否連絡**
※裏面参照

POINT ▼

POINT ▼

POINT ▼

POINT ▼



本学では地震発生を予報する緊急地震速報を導入しています。

緊急地震速報を聞いたら

- 地震が来るまでに出口を確保し、ガラス窓や棚など危険物から離れる。
- 退避姿勢をとる机の下にもぐる、バッグなどで頭を覆うなどして、落下物から身を守る。
- あわてて飛び出さない窓ガラスなど危険物の落下から身を守るため、その場で安全な場所を探し、退避姿勢をとる。
- 揺れがおさまるのを待つ安全を確保して、揺れがおさまるのを待つ。

揺れがおさまったら

- 冷静に様子をみる余震の可能性もあるので、あわてずしばらく様子をみる。
- 周囲の状況を確認周囲のものが倒れたり、落下してくる恐れがないことを確認して、避難場所へ移動する。
- 初期消火火災が発生している場合は自分の身が安全な範囲で初期消火を行う。消火が困難と判断した場合は、すみやかに火から離れる。

避難する時の注意点

- 「おかしも」を守る「おさない、かけない、しゃべらない、もどらない」を守り、教職員や非常放送の指示に従って落ち着いて避難する。身の回りのものは身につけるが、避難に支障が出る大きな荷物は置いていく。
- 火災が発生している場合煙を吸わないよう、タオルなどで口を覆う。
- 階段で移動エレベーターは使用せず、階段で移動する。

安全が確認できたら、避難・集合

- 避難場所では教職員の指示に従い、冷静に行動する。
- 帰宅か学内に留まるかは、大学の災害対策本部が指示する。その指示があるまで学内に留まる。

長久手・星が丘キャンパスから10kmの地図



※災害時、交通機関が長時間不通となった場合に、徒歩で帰宅する目安の距離は10kmとします。

- 大学ではあらかじめ以下の場所を避難場所としていますが、地震時の状況により安全な場所へ避難してください。

長久手キャンパス

避難場所▶▶ グラウンド

星が丘キャンパス

避難場所▶▶ 中高テニスコート

帰宅可能な場合

- 帰宅可能な場合でも、必ず大学の指示に従って帰宅する。
- 帰宅時は、できる限り同じ方向の2人以上で行動する。

学内に留まる場合

- 交通機関が停止する、帰宅が深夜になるなど、帰宅困難となった場合は、学内に留まる。
- 建物内への移動、宿泊場所などについては大学の指示に従う。
- 家族との安否確認は、裏面の伝言ダイヤルサービス、伝言板サービスなどを利用して自分自身で行う。



通学中

- 周囲の状況に注意し、身の安全の確保を最優先とする。
- 「帰宅するか」「登校するか」または、「最寄りの安全な場所に避難するか」は自分で判断して行動する。
- 被害状況を正しく把握する。
- 事前に家族と相談して決めた避難場所に移動する。ただし、被災場所やその場の状況によっては安全を最優先し、別の避難場所に移動する。
- 避難中は警察や消防の指示に従う。

住宅街や街中にいるときは

- バッグなどで頭を守り、建物から落ちてくるガラスや、切れた電線などに注意して、公園や広場に避難する。
- 塀、電柱、自動販売機などから離れ、倒れやすいものや、落下物にも注意する。

電車やバスの中にいるときは

- 急ブレーキ・急ハンドルに備えて、普段から吊り革や手すりにつかまるようにする。
- あわてて車外に飛び出さず、車内放送、係員の誘導に従って避難する。

エレベーターの中にいるときは

- 階数表示のボタンを全部押し、ドアが開いた階で降りる。
- ドアが開かないときは、緊急ボタンを押して外部に連絡をしたら、外からドアを開けてもらうまで落ち着いて待つ。

地下街にいるときは

- 停電になっても非常灯がつくので、あわてずに行動する。
- 火災が起きている場合は、構内放送をよく聞いて火元を確認してから避難する。避難のときはハンカチで鼻と口を覆って、からだを低くして壁つたいに煙の流れる方向へ。緑色の避難口の表示も参考に。

登校する時に心がけておくこと

- ・スマートフォン等の予備電池を持ち歩く
- ・ホイッスルを持ち歩く
- ・小型のライトを持ち歩く
- ・大地震対応マニュアル(本冊子)を持ち歩く
- ・徒歩で帰宅する場合のルートを考えておく
- ・家族との連絡方法を相談しておく